

【第2セッション】 研究データへのアプローチ：
エジンバラ大学図書館の実践事例を中心に

日本における研究データリポジトリ への課題 【調査経過報告】

機関リポジトリ推進委員会 コンテンツWGデータ班
大園 隼彦
鈴木 雅子
南山 泰之

データ班のタスク

1. なぜ図書館が研究データを扱うのか？を明らかに

そもそも、図書館がやるべき理由って？

2. (主に海外の)研究データ管理の動向調査

メタデータ、データ管理プラン、etc...

3. 技術的検討

- 現在の機関リポジトリで対応できる？
- 研究分野ごとに管理を変える必要は？

1. なぜ図書館が研究データを扱うのか？(1/4)

■「なぜ研究データ管理サービスを開発するのか」

- Researchers need to exchange data across diverse platforms and demand effective systems to store, access and share data securely...
- (仮訳) 研究者は多様なプラットフォームでデータを交換する必要があり、安全にデータを保存、アクセス、共有する効果的なシステムを求めている



信頼できる保存・再利用サービスの必要性

1. なぜ図書館が研究データを扱うのか？(2/4)

■「データにアクセスし、再利用するための必要事項」

- Services such as access management, storage and preservation need to be prioritized according to value and user demand, a principle familiar to any library user who has borrowed from a short loan collection...
- (仮訳) データアクセス管理、ストレージや保存方法についてのサービスは、図書館の短期貸出のようによく知られた原理に従い優先付けがなされなくてはならない。

・・・“How to Develop Research Data Management Services” p. 17

1. なぜ図書館が研究データを扱うのか？(3/4)

■「サポート・管理サービスの提供主体」

- Those traditionally engaged in information management and computing services will, however, be customarily recognised as the groups best fitted to lead in the identification of requirements, standards and solutions.
- (仮訳) 従来、情報管理とコンピューターサービスに取り組んできた部署は、要件、基準、解決法の認識で先頭に立つことに最も合ったグループとして慣例的に認められるだろう。

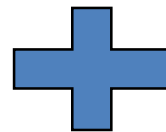
・・・“How to Develop Research Data Management Services” p. 3

1. なぜ図書館が研究データを扱うのか？(4/4)

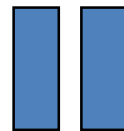
信頼できる保存・利用サービスの存在

良く知られたルールを熟知

リポジトリでの経験値



「研究支援」に長けた人材がいる



図書館(+α) でやってみよう！

2. 研究データ管理の 国際的な動向調査

- ✓ 研究データ公開の背景
 - オープンサイエンス
 - 国による助成 & データ公開の義務化
- ✓ 研究データ公開を支援する国際機関
 - DCC, RDA, DataCite, ANDS, etc...
- ✓ 各国の大学図書館の取り組み
 - データリポジトリの構築
 - ポリシーの作成
 - データ提供者向けガイダンスなど

詳しくは・・・ <http://oui-oui.jp/2014/09/rdm/>
池内有為講師のブログ

3. 技術的検討

□現在の機関リポジトリで対応できるのか？

- データのサイズ・分量
- メタデータの粒度
- 他DBとの連携の必要性など

分野によって
事情が大分違う！

JuNii2改訂も視野に入れつつ。

□まずは

- JAIRO Cloudで扱うことを前提に、分野ごとのメタデータ・ポリシーの比較・検討中
- リポジトリでの研究データ管理のニーズがある分野のうち、導入実験に適したところから

並行して、各分野の研究者へのアンケート調査を実施中。

4. 今後の予定

◆11月～1月頃

- ✓ 動向調査の精査
- ✓ 研究データリポジトリ導入の可能性検討

◆1月～2月頃

- ✓ 導入のための参考資料まとめ(仮)
 - 他のDBとの連携の在り方
 - データ公開までのプロセス etc...

◆3月末

- ✓ 今年度のデータ班報告書作成

参考資料

- “How to Develop Research Data Management Services”
 - http://www.dcc.ac.uk/sites/default/files/documents/publications/How-to-develop-RDM-services_finalMay2013rev.pdf
 - リポジトリ推進委員会WGで翻訳(全文)予定。
詳細は推進委員会のウェブサイトで！
- オープンデータ～日本版データリポジトリの可能性～
(国立情報学研究所学術情報基盤フォーラム2014)
 - http://www.nii.ac.jp/csi/openforum2014/docs/b-3_takeda.pdf

ご清聴ありがとうございました。

2014.11.6

機関リポジトリ推進委員会

コンテンツWGデータ班